

## 福井三郎先生のご逝去を哀悼して

会 長 小 林 猛

本学会元会長・顧問、京都大学名誉教授福井三郎先生は、去る1月11日午後5時41分、桂病院（京都市）において肝不全のため永眠されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。昨年9月に東京農業大学で開かれました平成9年度日本生物工学会大会の間に会長懇談会を開催し、福井先生から本学会の更なる発展のために種々ご意見を賜り、また直弟子である田中渥夫教授の日本生物工学賞のご受賞を大変喜んでおられましただけに、残念でなりません。

福井先生は昭和38年より本会理事として、昭和50年より副会長として、さらに昭和52年より昭和58年まで会長として本会の隆盛のためにご尽力下さいました。本学会が現在会員数4591名の多くに達し、国内外において高く評価されるに至りましたのはひとえに先生のご努力とご指導の賜物であります。昭和47年に本会が主催しました第4回国際醗酵会議でのご貢献は高く評価されています。昭和48年には醗酵工学雑誌を英文誌と和文誌に分割し、先生の多くのすばらしい研究成果を発表していただくことによって学術誌として大発展する基盤を作っていただきました。さらに、昭和57年には創立60周年記念行事を会長として主催され、また西日本支部を創設して学会活動の拠点作りにご尽力いただきました。先生のご業績は大変に幅広く、限りがありませんが、本会は先生のご功勞に報いる一端として、昭和58年に第2回醗酵工学賞を授与させていただきました。先生はさらに日本ビタミン学会会長、(財)バイオインダストリー協会会長等の多くの要職につかれ、生物工学・生物化学の発展に大変ご尽力なされ、また国際的にも多くのご貢献をなされました。福井先生のこのようなご貢献に対して平成5年5月、勲二等瑞宝章が授与されました。

ここに改めて福井先生の遺徳と遺業に対しまして衷心より尊敬と感謝の意を捧げますと共に、深くご冥福をお祈り申し上げます。

---

京都大学教授 田 中 渥 夫

福井三郎先生は、京都大学助教授、姫路工業大学教授を経て昭和36年4月から同58年3月まで京都大学教授として、工学部工業化学科において工業生化学講座を担当された。先生のご研究は有機合成から始まったが、その後のご業績の大部分はビタミンを中心とする醗酵生産、微生物生理および生化学に集約される。とりわけ、ビタミンB<sub>6</sub>やビタミンB<sub>12</sub>補酵素の構造と機能の相関に関する研究、石油炭化水素を基質とするビタミンおよび補酵素の生産から発展した酵母ペルオキシソームの研究、ビタミンB<sub>6</sub>補酵素をリガンドとする酵素の固定化から展開した、合成樹脂プレポリマーを素材とする生体触媒の固定化法の開発とそのバイオリクターへの応用に関する研究などは、海外でも高く評価され、国内外の多くの賞を受賞された。また、先生は日本醗酵工学会をはじめ日本ビタミン学会、(財)バイオインダストリー協会などの会長や多くの学協会・財団の役職を務められ、我が国の生物工学・生物化学の発展に尽くされるとともに、これらの分野において後進の育成に当たられてきた。さらに海外との学術交流にも積極的に取り組まれて多くの知己を得られるとともに、その貢献に対してドイツ、フランス、ベルギー各政府より勲章が贈られた。

ここに先生にいただいたご指導ご鞭撻に深く感謝するとともに、謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。